

# Library NEWS

～図書館だより～

## 令和7年度 晃陽中学校図書館

6月になり、関東地方も梅雨入りしました。ジメジメした天気が続くと気分も落ち込みがちですが、外に出られない時はたくさん読書をして、ストレスを吹き飛ばしましょう。

知っておきたい<sup>こじせいご</sup>故事成語  
いっこくせんきん

### 一刻千金

春の夜は一刻（わずかな時間）が千金（大金の意味）に値するという詩の一説からとった言葉。わずかな時間にとっても価値があることの意味。  
（『故事成語大辞典』三上英司監修 あかね書房より）



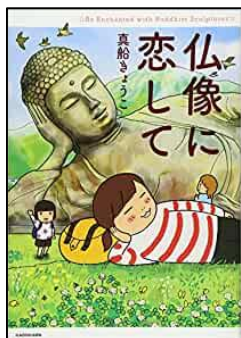
## 修学旅行に関する本のコーナー

京都・奈良，修学旅行に関する本や，京都や奈良が舞台の小説を集めてみました。



『仏像に恋して』真船きょうこ：著

新人物往来社



奈良の大仏しか知らなかった作者が，京都で仏像をみて一目ぼれ。京都・奈良・岩手など，仏像との出会いを描いたコミックエッセイです。仏像の歴史もわかりやすく説明され，仏像鑑賞も楽しくなりそうですね。有名な仏像が，たくさん紹介されています。



『金閣寺』

三島由紀夫：著 ほるぷ出版

1950年に，金閣寺が放火によって全焼した事件があり，それをモデルとして書かれました。

犯人の心情や背景を，三島なりに解釈したものです。現在の金閣寺は，焼失した後再建されたものです。

今年は三島由紀夫生誕100年です。日本だけでなく世界中から注目されている作品を読んでみましょう。

『京都府警あやかし課の事件簿』

天花寺さやか：著 PHP文芸文庫

「あやかし課」という本部直属の特殊部隊に配属された大はある特別な技能をもっていました。

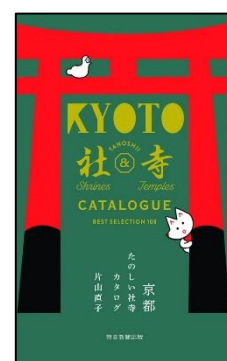
人には言えない事情をもった彼女たちが，化け物から神様まで，あやかしが絡む不思議な事件の解決に向けて奮闘します。京都府を舞台にした小説の中から最も地元の人に読んでほしい作品の，読者投票によって大賞に選ばれた本です。



『京都たのしい社寺カタログ』

片山直子：著 朝日新聞出版

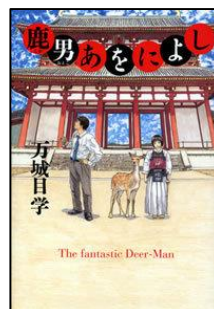
世界遺産に登録されている17の社寺の歴史や，みんなが知りたい開運スポットをたくさんの写真とイラストで紹介してくれます。さらに，おすすめ見学方法を提案してくれます，そこで購入できるお土産やお守り，食事処など知りたいことが調べられる1冊です。事前学習にぜひ使ってください。



『神様の御用人』

浅葉なつ：著 KADOKAWA

膝を壊し，野球をあきらめたフリーターの主人公は，ある日狐神から，神様たちの御用を聞いて回る「御用人」を命じられます。人々の願いを聞いてくれる神様にも，聞いてほしいお願いがたくさんあるようです。モデルになったのは奈良県にある神社だそうです。



『鹿男あをによし』

万城目学：著 幻冬舎

「あをによし」は「奈良」につく枕詞で，都として栄えた歴史や奈良の美しさを表す言葉です。「あをによし」「鹿」とくれば，奈良の話です。奈良公園でであった人間の言葉を話す鹿と主人公の不思議な話です。

## 図書学芸委員会活動報告



5/16 生徒総会で、年間計画を発表しました。また、活動についての質問に答えました。



新しい本が届きました。貸出できるようにバーコードを貼っています。



貸出し

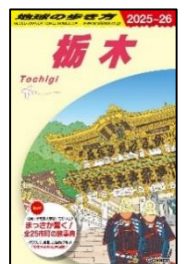
あいさつ運動  
昇降口、西門、北門に立ち  
元気なあいさつで1日を  
スタートさせました。



巡回図書の入替え



『地球の歩き方 栃木』  
Gakken



県民一人ひとりが、郷土への理解と関心を深め、県民としての一体感のもと、より豊かなふるさと栃木県を作るために6月15日が「県民の日」として制定されました。この日は、明治6(1873)年、栃木県と宇都宮県が合併し、おおむね現在と同じ県域の栃木県が成立した日です。

栃木県出身の作家とその作品を紹介します。

### 『銀河鉄道の父』門井慶喜：著 講談社



『銀河鉄道の夜』を読んだことがありますか？この本は、作者の宮沢賢治の父政次郎の視点から描かれた作品です。賢治の生家は、政次郎の父の代からの裕福な質屋でしたが、賢治は家業を嫌っていたそうです。しかし自活できない賢治は政次郎に頼るのでした。



### 門井慶喜（かどいよしのぶ）

1971年群馬県生まれ。3歳で宇都宮に転居しました。宇都宮市立国本中学校・宇都宮東校出身です。『銀河鉄道の父』は三度目のノミネートで直木賞を受賞しました。その他の作品『家康、江戸を建てる』『シュンスケ！』  
図書館にあります。貸出できます。



### 『百年厨房』村崎なぎこ：著 小学館



石庭大輔は宇都宮市大谷町にある旧家に、一人で暮らす公務員。ある日突然現れた古風な若い女性アヤが、明治生まれて大輔の祖父のもとで働いていたと聞かされます。姪を引き取り、さらに友人も加わった4人での同居生活が始まります。アヤの作る百年前の料理は、作者が現代によみがえらせたメニューです。



### 村崎なぎこ（むらさきなぎこ）

栃木県生まれ在住。  
『百年厨房』日本おいしい小説大賞  
その他の作品  
『ナカスイ！海なし県の水産高校』シリーズ  
馬頭高校がモデルです。  
『オリオンは静かに詠う』  
すべて栃木県が舞台となっている作品です。



### 『にんげんだもの』相田みつを：著 文化出版局



どのような道を どのように歩くとも  
いのちいっぱい 生きればよいぞ

どの作品も、優しく力強く、勇気をもらえます。心が疲れた時は相田みつを作品を読んでください。

### 相田みつを（あいだみつを）

1924年足利市生まれ。詩人・書家  
30歳の頃、自らの詩を独特の書体で書く作風を確立しました。「つまづいたっていいじゃないか にんげんだもの」が入っている『にんげんだもの』はミリオンセラーとなりました。その他の作品『一生感動一生青春』『雨の日には…』

